

兵庫の温泉

◎有馬温泉◎

日本三名泉（有馬・草津・下呂）と日本三古泉（有馬・白浜・道後）の
両方に名を連ねる名湯

関西の奥座敷とも称される有馬温泉。

有馬温泉の起源といえば、神代の時代にまでさかのぼります。

大己貴命(おおなむちのみこと)と少彦名命(すくなひこなのみこと)の二神が
有馬の山中の水たまりで、傷を治している三羽のカラスをご覧になり、
「これは温泉なのだ」と発見されたことから
はじまったといわれています。(三羽のカラスに導かれたといわれています。)

有馬温泉が初めて記録にあがってくるのは、あの『日本書紀』。
すでに日本開闢の時点でその名が知られていたことがうかがえます。

また、奈良時代の『摂津国風土記』には、
「有馬は塩の湯が沸いていて、一帯を塩の原山」と呼び、
「蘇我馬子（そがのうまこ）の時代に見つかった」という記述があります。

有馬温泉は、環境省の指針により療養泉として指定している

9つの主成分（単純性温泉、二酸化炭素泉、炭酸水素塩泉、塩化物泉、硫酸塩泉、
含鉄泉、硫黄泉、酸性泉、放射能泉）のうち、
硫黄泉と酸性泉を除く7つもの成分が含まれており、
世界的にも珍しい多くの成分が混合した温泉です。

泉質は湧出場所により異なり、塩分と鉄分を多く含み褐色を呈する含鉄塩化物泉、
ラジウムを多く含む放射能泉、炭酸を多く含む炭酸水素塩泉の3種類があり、
それぞれ、湧出口では透明ですが、
空気に触れ着色する含鉄塩化物泉は「金泉（きんせん）」と呼ばれ、
それ以外の透明な温泉は「銀泉（ぎんせん）」と呼ばれています。



<http://www.hyogo-tourism.jp/onsenrally/arima/index.html>